

# 祝 創立50周年記念



山本実行委員長から表彰・感謝状の贈呈(写真右から高木さん、森川さん、丹野さん、大村さん、瀧澤さん、上野さん。橋本さんは記念講演時に贈呈)

川根地域唯一の高校として地域とともに歩むこと、半世紀を迎えました

HighLight

今月の  
注目

4

## 県立川根高校で創立50周年記念式典を挙行

県立川根高校は10月27日、創立50周年記念式典を挙行し、生徒や教職員、卒業生らが約400人出席し、半世紀の節目を祝った。式典では表彰、感謝状の贈呈があり、式後には郷土芸能部の和太鼓演奏、2期生で伊藤園副社長の橋本俊治さんの記念講演があった。

伝統を絶やさず、次の50年を

県立川根高校は昭和38年に川根地域の強い要望により、藤枝東高校川根分校として開校し、昭和41年に独立。川根地域唯一の高校として地元で根差した特色ある教育により、6666人の卒業生を送り出してきました。同窓会長の山本信之実行委員長(藤川)は「本校は、地域の活力源として、必要不可欠です。いつまでもこの地に存続するように、ますますの発展を願います」とあいさつをしました。

堀田英正校長は「地域の皆さまの温かい支援と熱い思いが、脈々と受け継がれている」と感謝し、来賓の安倍徹県教育長は「恵まれた環境の中、地域の特色を生かした、考えを深める学習に取り組んでいる」とあいさつしました。

佐藤町長は「郷土愛を持ち、特色あるカヌー部や郷土芸能部の伝統を絶やさず、次の50年に向けさらなる飛躍を祈ります」とあいさつしました。

式典では、初代同窓会長やロンドン五輪カヌー競技出場の大村朱澄さん(43期生)ら7人への表彰、感謝状の贈呈もありました。



▲写真前列右から安倍県教育長、佐藤町長 後列右から植松県高等学校長協会副会長、伊藤県議会議員、大池県議会議員、板谷町議会議員、杉山町教育長

和太鼓演奏と記念講演が式典に花を添えました

式後、郷土芸能部が2曲、元気いっぱい、和太鼓演奏を披露すると、会場からは手拍子が送られました。

記念講演は、2期生で(株)伊藤園取締役副社長の橋本俊治さんが「失敗から生まれるもの」と題し行い、創立50周年記念式典に花を添えました。



▲郷土芸能部の和太鼓演奏



オリンピックレースにて  
 (左)北本選手、(右)大村選手:家族提供写真)



**川** 根本町の皆さま、こんにちは。カヌースプリント競技・日本代表の大村朱澄です。8月に開催されたロンドンオリンピック出場にあたり、川根本町の皆さまには、たくさんの方の励ましの言葉、温かな応援をいただきました。また、ご支援の面でも甚大なサポートをいただきました。感謝の思いは言葉では表現しきれないほどですが、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

**2** 2010年のアジア競技大会に出場した後、後援会を立ち上げていただきました。立ち上げに大変な

ご尽力を注いで下さった関係各位の方々、そしてご理解とご協力をいただきました町民の皆さまに、本当に頭の下がる思いでお礼を申し上げます。

**こ** の2年前のアジア大会を経験して、私の中で

人のためにカヌーをしたいという思いが一層に強くなりました。大会の結果は、優勝を逃し2位に終わりましたが、帰国後の町での報告会で私は多くの笑顔と喜びの声に包まれました。生まれ育った川根本町で町民の皆さまの喜んでいただける姿を見た時、純粹にうれしくて、今後のカヌーでの目的がプラスされた感じでした。自分の夢を叶えるため。家族の楽しみに応えるため。そして、川根本町の皆さまの笑顔をもっともっと見るため。この時、私の胸に改めて誓ったのが、翌年に控えた予選会でロンドンオリンピック出場権を獲得すること。そして、2年後の本番で世界と堂々と戦い勝つ姿を見てもらう事です。

**つ** いに8月、この二つ目の誓いを叶える瞬間が

訪れました。しかし結果は、予選敗退。初めての夢の舞台での挑戦は、予選一本で終わらせてしまい、苦い結果となりました。全てがうまくいかない事も、そんな時を経験して乗り越えていく価値がある事も分かりますが、その時の私は今を戦っていたので、ただただ敗北に悔しさを感じ、応援してくださった皆さまへの申し訳なさでいっぱいでした。応援や期待の声に応えたい、という想いもありますが、何より夢に見た今回のチャンスを今生かしていきたいという思いが五輪出場を決めてから強くなっていたからです。年齢的にもまだまだチャンスはありますし、私の気持ちとしても挑戦していく中で、一段一段目標をクリアしていけたらと見据えていました。

【つづく】

◀川高創立50周年記念式典で「今があるのは川高を選び、カヌーを始めたからです」とコメント

